とうきょうすくわくプログラム活動レポート

「音を楽しむ」（1歳児／1回目）

しおどめ保育園京急蒲田駅前では、東京都の「とうきょうすくわくプログラム」を通して、子どもたちが身近な環境にふれながら、感じ、考え、試してみる体験を大切にした活動を続けています。
今回のテーマは「音」。絵本や手遊び、リズム体操が大好きな子どもたちの興味をさらに広げるため、さまざまな楽器にふれる活動を行いました。音を聞き、体を動かし、自分でも鳴らしてみる。そんな体験を通して、子どもたちの好奇心が広がっていきました。



歌の絵本が始まると、音楽に合わせて体を揺らしたり、先生の動きを真似したりする子どもたち。親しみのある歌やリズムに、自然と体が動き出します。
さまざまな楽器を前にすると、興味津々の様子。先生が楽器の音を声で表現すると、「かちゃかちゃ」と真似をしたり、「がっき」「タンバリン」と新しい言葉を口にしたりする姿も見られました。

活動のための工夫と環境づくり



子どもたちがさまざまな音に親しみ、自由に試せるよう、次のような絵本や楽器を準備しました。
- 歌絵本「くいしんぼゴリラのうた」「だいじょうぶ？ズコッ」
- ベルハーモニー、コンサーティーナ
- タンバリン、トライアングル、鈴
- ウッドブロック、クラッター
- MUSIC PUSH PUMP P-tunes、スピーカー

叩く、振る、動かすなど、楽器によって異なる音の出し方を楽しめる環境を整えました。子どもたちが自分の好きな音や鳴らし方を見つけられるよう、一人ひとりの興味を大切にしています。



子どもたちの姿から見えた“学び”

先生がベルハーモニーで「きらきら星」を演奏すると、聞き覚えのあるメロディーに気づき、手をキラキラと動かす子どもたち。
先生が歌のリズムに合わせて楽器を叩くと、一緒に音を鳴らそうとする姿も見られました。
また、先生の手元をじっと見つめ、同じように楽器を叩いてみたり、音に耳を傾けたりする様子もありました。
「聞いてみる」「真似してみる」「自分で鳴らしてみる」。そんな小さな体験の積み重ねが、音への興味を広げ、自分なりに試してみる楽しさにつながっていました。





先生たちのふり返り

・先生の楽器の使い方をよく観察し、同じように動かして音を鳴らす姿が見られた。
・知っている曲を演奏することで、音や楽器への興味が高まり、親しみを持って活動に参加していた。
・自分で楽器を叩いたり、耳を近づけたりしながら、音の出方を確かめる姿が見られた。今後は手作り楽器なども取り入れ、さらに楽しみを広げていきたい。

遊びが“探究”に変わる瞬間

音が聞こえると体が動き、楽器を鳴らすと新しい音が生まれる。その一つひとつが、子どもたちにとって楽しい発見です。
「どんな音がするのかな」「もう一回鳴らしてみたい」。そんな気持ちから、自分で試したり、繰り返したりする姿が生まれました。
今回の活動は、音を楽しむことから、聞く力や表現する喜びが自然に広がっていく時間となりました。これからも子どもたちの小さな発見を大切にしながら、音の世界を一緒に楽しんでいきます。